

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI川崎教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室スペースとの関係で適切であるか	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。適正利用人数を厳守し、安全な運営を心がけていく。	
	2	職員の配置数は適切である	安全に考慮した人員を配置している。また、子どもの状況、様子によって加配し、安全に運動出来るよう常に配慮している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	児童が見通しを持てるよう、1日の予定を掲示している。また、見やすさを考えるとともに視覚による刺激を配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	毎日の消毒・掃除、またクールごとの消毒を行っている。(運動器具、スペース全体の掃除、消毒) 感染症に関わらず、年間を通して教室全体の消毒、掃除、換気は都度行っている。また、全クール終了後は必ず全体の清掃とともに、不具合がある箇所の点検等を行い、修繕が必要なところは極力その場で改善するように努めている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	毎日、始業時と終業時にミーティングを行い、情報の共有をしている。グループラインでその都度共有事項を送信し、確認するようにしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	毎年の評価の実施は勿論、日々の保護者との関わりの中で、ご意見やご意向を聞き取るようにしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2019年度から毎年公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	ミーティング等で出た課題について、業務に支障をきたさない範囲で学び合う時間を設けるようにしている。今後も学ぶ機会を設け、全体の資質向上に注力していく。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	面談やフィードバック時の聞き取り等を細かく行い、ニーズを確認している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。また、定期的に情緒面や運動面のアセスメントシートを作成している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	定期的に支援計画ミーティングを行ない、スタッフ同士の情報交換、意識の共有を行い、話し合いながら支援内容を検討している。日々のミーティング(始業時・終業時)でも支援すべきポイントをその都度話し合い、共有するよう心掛けていく。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI川崎教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	計画立案後は各自目を通し、具体的な支援目標を把握するようにしている。更に、一言情報(毎日の登室の状況、支援の内容等)を日々記録・確認し、支援の内容更新を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	スタッフ同士でその都度意見を出し合い共有しながらプログラムの内容を工夫している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	いろんな運動を組み合わせ、子どもの状況や様子によってプログラムを適宜取り入れるようにしている。また、毎回クールごとのスタッフを入れ替えて、スタッフも固定化しないように対応している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	保護者との面談やフィードバック等で直近の様子を聞き取り、取り込みながら作成している。引き続き、日常から保護者とのコミュニケーションを取り、スタッフ間で共有していく。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	始業前のミーティングで支援内容・役割分担を確認し、共有している。共有したことは記録に残し、振り返りができるようにしている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	始業前のミーティングと同じく、必ず就業時のミーティングを行い、その日のうちにスタッフ間で確認、共有をするようにしている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	独自の一日の情報記録用紙(子どもの一言情報)に記入し、次回の支援につなげている。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	契約後、6か月以内に定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、計画の見直しの必要性を判断している。	
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	児発管と現場指導員で参画している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	学校との連携(ケース会議等)も定期的に行ったり、要望があったらすぐに対応するようにしている。	
関係	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		当事業所には、医療的ケアが必要な児童は通所していないが、必要が生じた場合には連携できる体制を整えていく。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		当事業所には、医療的ケアが必要な児童は通所していないが、必要が生じた場合には連携できる体制を整えていく。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		今後必要に応じて検討していく。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI川崎教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	保護者様からの依頼があれば、今後対応していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	必要に応じて連携を図っている。今後も継続していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	交流の場はないため、今後必要に応じて検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	現在特にしていないため、情報収集をし、今後必要に応じて検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、希望に応じ学校や家庭での様子を伺いながら支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。また、保護者・子どもの様子にもよるが、極力毎回課題を伝えるようにしている。送迎がない分、毎回保護者様と話し、子どもの状況等を共有している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	ペアレントトレーニングは職員の間で行われている。日々のフィードバックの中で、子ども対応について親へのアドバイスをを行っている。また面談時に相談を受けた場合も、指導員が回答するなどして支援を行なっている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。契約時は必ず説明を行っているが、新しい項目等がある時は面談時に説明するようにしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	児発管が支援計画を作成・説明を行って同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	指導員や児発管が悩みを話せるように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングを行い回答するように心がけている。また、電話で経過を伺うなどして相談に応じている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	現在、父母の会や保護者会は行っていないが、ご要望が多くなってきた場合は検討も考慮していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	苦情・要望については、受けた時点で都度対応し早急に改善するようにしている。専用お問い合わせ窓口の設置(個人別ライン)にて個別に対応している。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI川崎教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報等は発行していないが、連絡事項は事業所内の分かりやすい場所に掲示している。また、LINE@で連絡体制を整備している。インスタグラムで活動の様子もお伝えしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報と思われる資料等は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしているが、PC等からの個人情報へのアクセスについては、まだ不十分な面があるため、今後必要に応じ検討していきたい。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	聴覚障害児の対応時は、ゆっくり大きく口を動かして話すようにしている。耳の聞こえにくい方への伝え方は、指導員が手話研修を受け、他の職員に伝達している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	左記マニュアル類は閲覧出来るようにし、職員間で周知しているが、保護者への周知はまだできていないため、今後、配布物等で周知していく。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年2回、地震や火事を想定して実施。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	健康面に関しては、契約面談時のフェイスシートと面談時に確認している。変更があった場合は適時情報提供いただくよう周知している。	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	契約面談時のフェイスシートと面談により、食物アレルギーについては聴取しているが、食事提供は行っていない。		
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度その時どうだったか、ビデオを確認しながらスタッフ間で振り返りをし、共有することで今後の対応策を話し合っている。振り返りを行ってから記録を作成し、ファイリングをしている。		
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	管理者兼児発官が年2回内部研修を行っている。		
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	事業所内ではやむを得ず拘束に至る場が無いが組織的に決定しており、契約時には事前説明している。		

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI川崎教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17	0	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	15	1	0	1	十分な配置数だと思います。	ありがたいお言葉ありがとうございます。 今後も、お子様の安心・安全を意識しながら職員配置に考慮してまいります。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	16	0	0	1	運動器具が見えてしまう分、そちらに関心が行ってしまうこともあるが、現状の程度であれば普通の練習にもなって良いと思う。	そう言っていただいてありがたく存じます。 環境は極力シンプルに設定し、集中しやすい空間を心掛けてまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	17	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	17	0	0	0	親の主観だけでない点で助かります。	ありがとうございます。 お子様の課題やニーズに合った療育を提供出来るよう引き続き努めてまいります。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	13	1	0	3		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	15	2	0	0		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	11	5	0	1		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5	1	4	7	普段、保育園に通っているので、問題は感じていません。	今後、ご希望・ご要望等のお声が多くなってきましたら、検討していきたいと思っております。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17	0	0	0		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	15	0	0	2	実際に子どもの活動の様子を見ながら、十分な説明をしていただきました。	ありがとうございます。 お子様のその時の課題を面談やフィードバックで確認させていただきながら、支援内容を設定するようにしております。 今後も保護者の皆様方と一緒にお子様の成長を喜び合えるよう真摯に対応させていただきます。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	7	2	6	2		

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI川崎教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
保護者への説明等	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	14	2	1	0	利用後、運動の様子だけでなくお友達との関わりや体調の変化など細やかな報告をしております。	ありがとうございます。 普段の登室時のフィードバックではなかなか時間が取れない状況がありますので、詳しくお話しをご希望される場合は、面談等でお時間を設けますので、ご相談ください。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	3	0	1	・定期的とはどのようなスパンなのか？ 個別計画の見直しの時のみの面談しかないような気がする。 ・小さな悩みでも親身に聞いてくれて助かっています。	・対応が不十分で大変申し訳ございません。 面談は支援計画作成時以外でもご希望・ご要望に応じて対応させていただいております。こちらからもお話しさせていただきたい際にはお声がけいたしますので、どうぞよろしく願います。 ・ありがとうございます。 こちらでお子様の様子や状況から「気づき」があった時には、すぐに共有させていただき、支援に繋げてまいります。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	1	6	9	時間の確保を考えると難しいと思います。(あればいいとは思いますが)	父母の会や保護者会は行っておりませんが、ご希望や希望が多くなった場合は開催を視野に入れて検討していきたいと思っております。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	13	0	0	4	苦手な事、練習してほしい事を伝えるとすぐにプログラムに取り入れてくれました。	ご相談・ご要望等があった場合は、すぐにスタッフ間で共有・協議を行い、お答えするよう対応に努めてまいります。 今後もお気づきの点等ございましたら遠慮なくお申しつけください。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	13	0	1	3		
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	8	4	0	5	LINEでこまめにご連絡いただくので助かります。	LINEでの発信は、変わらず行っていますが、その他活動概要等はインスタグラムでも運動の様子等を発信しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。
	19 個人情報の取り扱いに十分注意されているか	13	3	0	1		
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	15	1	1	0		

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI川崎教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	2	0	0	定期的に避難訓練が行われています。	当事業所では、年2回の防災訓練(地震・火災)と年1回の不審者訓練を行っております。緊急時に備えての防災備品類、また災害時用備蓄も装備しております。各種訓練のスケジュールは、フィードバック時やLINEにて必ずご報告いたします。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	15	1	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日のスケジュールにも左右されているが、楽しみな様です。</li> <li>・その日のモチベーションがタクミの時間が多いため、全体的に楽しみに通えていると思います。</li> <li>・楽しく通えています。</li> <li>・嫌がらずに通えています。</li> </ul>	とてもありがたいお言葉、感謝申し上げます。常に、お子様・保護者の皆様方の気持ちに寄り添い、そして楽しく運動が出来るよう、その時のお子様の様子を確認しながらプログラムを進めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
	23	事業所の支援に満足しているか	15	1	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが笑顔でいられる場所が増えて満足です。</li> <li>・大満足です。</li> </ul>	そう言っただき、スタッフ一同とても励みになります。療育の質を向上するため日々研鑽を積み、皆様方へ最適な療育内容を提供出来るよう今後も努めてまいります。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI川崎教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。 集団クラスで子どもが多い時は、サーキットを複数に分けて、運動量が確保できるように工夫している。	
	2 職員の配置数は適切である	現在は配置されている職員の数に則った定員で運営を行っている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	建築基準法に基づき、入口は段差が無いように、トイレには手摺等を取り付け、バリアフリー化の配慮を行っている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	個別支援計画に基づき、日々の療育の前に指導員全員でミーティングを行い、終了後にも振り返りを行い、次回の療育に繋げる対策を行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向けアンケートを実施し、見直しが必要な評価項目については、今後計画的に改善を行っていく。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPで公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じ検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	外部研修に参加し、社内研修は他教室と合同で行ったり、教室ごとの運動方法等を共有し、職員間で知識共有、スキルアップを図っている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	児発管と指導員が、子どもの様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画の作成をしている。 スタッフ間の話し合いを大事にしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握に繋げている。初回、半年、1年のスパンで情緒面や運動面のアセスメントシートを作成している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	児発管と指導員が話し合い、プログラムの立案を行っている。また、子どもの状況・様子等も考慮して立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	運動は基本のプログラムを行い、その都度状況を見ながらルールを変えたり、子どもたちが楽しく出来るよう進めている。 常設のものや季節ごとのイベントなどを行う工夫もしている。(スタンプラリー、走る運動強化週間等)	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	当事業所は、長期休暇時もサービス提供は平日と特段変わりがないため、基本同じ内容、流れで実施している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	当事業所は個別クラスと集団クラスが設けられているため、契約時に適性を見極め各々のクラス設定を行い、子どもの成長度合いに応じ、クラス変更を児発管、指導員、保護者、子どもの意見をまとめて行っている。	
15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。		
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点洗い出している。		



	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録用紙(子どもの一言情報)にも記入し、検証している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	契約後、3か月以内に定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、計画の見直しの必要性を判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	総則通りに行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		現在はサービス担当者会議に参加していないが、各関係者を日程調整など整い次第、実施していく予定。開始当初は、児発管のみ参加する予定であるが、将来的には指導員の参加も検討していきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	当事業所は送迎がないこともあり、学校との情報共有は行っていない。その代わりに、保護者から間接的に学校情報をもらうことがある。また、保護者からの要請に応じて園や学校への訪問を行い、直接連携を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		現在はサービス担当者会議に参加していないが、各関係者を日程調整など整い次第、実施していく予定。現在はサービス担当者会議に参加していないが、各関係者を日程調整など整い次第、実施していく予定。開始当初は、児発管のみ参加する予定であるが、将来的には指導員の参加も検討していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、放課後等デイサービスや保険対象外の療育施設との情報共有や相互理解は要望があれば対応している。今後、必要に応じ検討していきたい。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	過去に放課後等デイサービスを卒業した児童はいないが、資料を提供できる体制は整っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	電話等でアドバイスをもらったり、その中で積極的に情報収集を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		現在は限られた営業時間の中で実施するのは難しく実施していない。また保護者からも必要との声が聞こえてこないため、今後必要性を検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		各自治体の方針によって参加の有無が異なっているが、あれば参加を検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。また、随時保護者からのご意見ご要望に対応出来る体制を保護者へ伝えている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	現在は行っていないが、今後必要に応じて検討していく。また、保護者に対しての話し方や礼儀などの作法を職員同士で常に話し合いをしている。	
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明している程度であるが、支援の内容は様々な状況で詳しく説明している。		
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	毎回、指導員や児発管が悩みを聞き出すように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できなときは、スタッフ間でミーティングし回答するように心がけている。		
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		父母の会はないが、フィードバック時に交流する方もいるが、なかなか連携・交流の場は設けられていないので、今後、要望等があればスペースや時間を確保したり検討していきたい。	

保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	現在は契約時等に苦情の連絡方法を伝えたり、苦情になる前に保護者の様子を察知し事前対応しているつもりであるが、意見箱の設置や専用お問い合わせ窓口を設置することを検討していく予定。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	教室共有ラインで、活動内容や周知すべき事項を適宜送信している。	
	35	個人情報に十分注意している	個人情報と思われる資料は、極力シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管している。フィードバックの際の個人情報については、保護者の要望に応じて距離を取る等配慮に努めている。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	耳の聞こえにくい方への伝え方は、はっきりした口調で伝えたり、手話を使って意思疎通が図れるように工夫している。また、絵カードや視覚で理解出来るよう配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	左記マニュアル類はできており、教室内各所に配置し周知しているが、引き続き保護者・職員全体に周知徹底していく。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年4回、地震や火事、水害、不審者を想定し、全クール・全児童が体験出来るよう実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待防止の研修を半年に1回行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	マニュアルも作成し、契約時に必ず説明をし、同意書にて了承をいただいている。当事業所では今現在拘束等は行われていない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	契約面談時のフェースシートと面談により、食物アレルギーについては詳しく聴取しているが、おやつは提供していない。イベント時に提供するお菓子にはアレルギー源を含むものは提供しないよう気を付けている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、毎日の振り返りで共有し、対策を打っている。スタッフがいつも見れる場所にヒヤリハットを置いている。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI川崎教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20	4	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	21	3	0	先生がたくさんいて良いと思います。	ありがたいお言葉ありがとうございます。今後も、お子様の安心・安全を意識しながら職員配置に配慮してまいります。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	17	6	1	段差等はなくバリアフリー化の配慮はされていると思いますが、コロナ流行後あまり中に入ることがないので手すり等はどうだったか忘れました。	各所に手すり等の設置は行って、適宜見直しをして、追加で必要箇所にも設置しております。お気づきの点等ございましたら、遠慮なくお申しつけください。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	24	0	0		
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	20	4	0		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	14	6		
	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21	3	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	23	1	0	毎回伝えてもらっているため安心です。	今後も、フィードバック時や面談等に限らずその都度、ご要望・ご希望等がございましたらすぐに対応させていただきます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	23	1	0		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI川崎教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
保護者への説明等	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	11	12	現状に不満等全くありません。	現在、父母の会や保護者会は行っていませんが、ご要望やご希望が多くなってきた場合は開催を視野に入れて検討していきたいと思っております。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13	11	0	苦情を言ったことがないので、その対応等は分かりません。	ご意見・苦情があった場合は、すぐにスタッフ間で共有・協議を行い、お答えするようにしていきます。何かありましたら、遠慮なくお申しつけください。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	22	2	0	”配慮”が具体的に何を指すのかわからない。	現状、支援計画の更新時や変更時の面談や療育終了後のフィードバックが皆様方との情報共有の機会となっておりますが、それ以外でも話し合いの場は適宜対応させていただきます。常に、お子様の様子や状況を把握することがお一人お一人の成長につながると意識しながら支援してまいります。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	14	8	2		
	14 個人情報に十分注意しているか	19	5	0	注意されていると思いますが、見えない部分なのでわかりません。	個人情報と思われる資料は、作業終了後シュレッダーで処理し、ご署名いただいた書類等は、施錠出来る棚に常に保管しております。フィードバックの際の個人情報については皆様方のご要望に応じて距離をとる等配慮に努めております。他にお気づきの点がございましたら、お声がけいただければ幸いです。
非常時等の対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	19	5	0		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	24	0	0		
	17 子どもは通所を楽しみにしているか	20	4	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>とても楽しみにしている。</li> <li>先生方が明るく楽しく子どもと接して下さるので、運動嫌いな子どもも何でも挑戦出来るようになりました。とても楽しいようです。</li> <li>運動が苦手のため…</li> </ul>	<p>とてもありがたいお言葉、感謝申し上げます。</p> <p>常に、お子様・保護者の皆様方の気持ちに寄り添い、そして楽しく運動が出来るよう、その時のお子様の様子を確認しながらプログラムを設定し進めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。</p>

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI川崎教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
満足度	18	事業所の支援に満足しているか	22	2	0	とても楽しみにしています。	そう言っただき、スタッフ一同とても励みになります。 療育の質を向上するため日々研鑽を積み、皆様方へ最適な療育内容を提供出来るよう今後も努めてまいります。

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。